

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 杵島岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	平成28年2月17日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成28年3月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

社会福祉法人として培ったこれまでの経験と専門性を活かし「傾聴・共感・受け入れる」を基本姿勢として、今必要とされている支援は何かをスタッフ全員でチームとして対応する事を意識しています。また、日々穏やかで、楽しく、安心できる暮らしが提供できるように、ご家族、スタッフそして関わっていただく皆さんとの良好な関係作りを大切にしています。特に地域交流が活発になると、入居者の皆さんの生活が明るく活性化することをスタッフ全員で理解し、常に意識していることで事業所と地域との交流(慰問やボランティア)、関係作りにつながっています。そして、これまで継続しているご家族の行事参加や紙芝居、本の読み聞かせ、レクレーション、絵画の展示などの協力も得ながら入居者の皆さんの暮らしを支える事ができています。様々な皆様の支援を得ながら、地域やご家族から、信頼、必要とされる事業所となれるよう、透明性のある運営と要望や相談が言い易い事業所作りにも努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設して経年による重度化の中で安全な暮らしに注視しながらも、新しいことへチャレンジした1年であったことが夜間の外出(地元の花火大会)や、全国の郷土料理食の提供等に表れ、日常生活に笑顔や活力を引き出している。所長を中心とした風通しの良い職場環境は、アイデアも豊富であり、特に敬老の日のプレゼントには心打たれる。地域との充実した関わりの中で、更に“地域との関わりによる地域に必要なホーム作り”とする目標はチーム力を結束させている。90歳以上の入居者が11名という高齢化に、個々の持つ特異性の見極めや主体性を尊重し、役割のある生活や残存機能を生かした日常は伸びやかである。開設時よりの苦情や要望、相談受け付け状況を精査し開示する等透明性のある運営体制は、家族・地域からの絶大な信頼を得、確固たる基盤が築かれている。家族も、四季折々の絵画展示や外出行事への同行等入居者及びホームへの思いも深く、地域・家族とともに温かいホームが形成され、入居者を取り巻く家族・地域との良好な関係が、一層深まっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活支援や事業所活動方針の指針とし、広報、事業計画にも理念を載せ、理念に基づいたサービスを提供するよう努めている	開設時全職員で作り上げた4項目からなる基本理念は、ホーム便りや運営推進会議等で啓発している。また、長期目標の中に、地域との関わりによる地域に必要とされるホーム作りを基にした長・中期目標を掲げる等地域密着型としての意義を明確に捉えている。毎月のケア会議のなかでの倫理綱領や行動指針等も全職員へ説明し理解を深めている。また、職員の志向の高さは、困難時の振り返る原点として、自主的に名札の裏に入れ日々確認することに表れている。重度化の中で、新しいことへチャレンジが、日常生活に一層の笑顔を引き出し、地域の中でその人らしい生活に繋いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのつながりを大切にして、地元のサークル活動などの発表やボランティア、慰問をとおして入居者の方達とのふれあい、交流を大事にしている	地域の中のホームとして、精力的に活動している。地区の清掃(側溝の掃除等)や、どんどや開催に向け一緒になって作り上げる等地域の一員として活動している。子ども神輿、フラダンスやバンド等のボランティアとしての訪問も多くなり、保育園数ヶ所との交流、地元の花火大会見学、敬老会へ招待される入居者等、地域とつながりながらの暮らしが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報により高齢者施策の現状説明や事業所の取組みを報告し、また、実習生の受け入れ、福祉体験をとおして高齢者介護の理解や人材育成に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現況や暮らし、活動報告を主に、家族参加型の会議など、その時に応じた議題や参加者を募り、情報提供や意見交換を行っている	運営推進会議は、毎年テーマを持って開催しており、「かたろう会」と称してキーパーソン以外の家族も参加されており、入居者を取り巻く家族との関係を一層深めている。今年度より介護相談員制度のスタートに合わせ、訪問前にこの会議に参加してもらおう等テーマに即した充実した会議を開催し、運営推進会議の在り方を検討するという目標に向け、老人会にも参加を促す意向である。	定例化した会議は、現状や活動の他、開設時からの苦情・相談件数や内容を報告し質疑応答を行う等透明性のある運営体制であることが議事録に表れている。老人会へも参加を呼び掛けたいとしており、地域の問題まで話し合える機会として、更なる発展した運営推進会議とされることが大いに期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種報告書や申請書類は、郵送ではなく訪問提出を基本としている。運営推進会議での報告や入居者に関する、各制度担当者との相談、連絡を通して情報交換や連携が図れるよう心掛けている	運営推進会議の中で、現状や活動等を積極的に発信するとともに、市への提出書類なども持ち届け、様々な情報を得ており、何時でも協力が得られるよう取り組んでいる。介護認定更新申請や訪問調査時の情報交換等連携しながら入居者を支えており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会など実施することで職員一人一人が、身体拘束の弊害の大きさを十分に認識し安全で自由な暮らしを送っていただけのように努めている	繰り返しの研修により周知徹底しており、拘束の弊害を全職員が正しく認識している。センサーマット使用にあたり、家族に行動を抑制するためではなく、転倒防止であることを説明し同意を得ている。また、言葉のなかには動きを抑制することもあると認識し、職員同士注意喚起し、入居者個々の行動パターン等、センサーの有効活用と、行動を把握しつつ動きを制限していないと感じてもらおうよう配慮している。ホーム内では自由にのびやかに生活されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、どんなことが虐待につながるのか理解すること、そして、スタッフの心身のストレスや疲労等にも気を配りスタッフ同士のコミュニケーションを大切にしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者がおり、後見人の役割や事業所の関わりなど実践をとおして、今後の支援に役立てている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時などに生活支援、利用料、医療連携などについて各担当者による説明や文書により分かり易く行くと共に必要に応じて、随時説明できる体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者を設けることで些細なことでも相談しやすいような環境である。アンケートや意見箱の設置、重要事項説明書に行政機関の苦情受付機関、苦情相談窓口や苦情解決責任者、第三者委員を明記、また、本年度より介護相談員等派遣事業受け入れを開始した	家族からの意見等出してもらえることがサービス向上につながり、ありがたいと受け止めており、担当制とすることで、入居者・家族との密接な関係が築かれている。本人から把握した事案や、訪問時や電話等で聞き取りした家族の生の声、プラン作成に向けたアンケートにより、些細な苦情や相談まで開設時からの案件をまとめ上げ、運営推進会議の中で開示している。また、ホームの相談・苦情受付体制を明確に示し、更に入居者の思いを引き出すべく、介護相談員制度利用をスタートさせている。	家族との良好な関係であることは、運営推進会議「かたろう会」として、年間の報告とともに、家族同士の交流の機会等として生かされていることに表れている。また、阿蘇の春夏秋冬の絵画も家族が時期に合わせて飾ることも、思いの深さと思われる。入居者を取り巻く家族との交流も充実し、家族も頻りに訪問されており、代表になってくださる家族もおられるであろうと推察され、ぜひ家族会の立ち上げにご尽力いただきたい、
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが考えて納得したケアだからこそ充実したケアの実践に繋がると考え、ケア会議やカンファレンスでは、皆で意見を出し合って決めるようにしている。意見が出しやすい環境作りと意見や提案は、まずやってみることを基本としている	日々の申し送りの徹底、ケア介護の中での業務改善会議等職員の意見や提案事項は合議とし、まずはやってみることにしている。居室の換気方法として時間帯を検討したり、居室での生活が多い入居者への対策、日常業務の注意点等を話し合い、方向性を導いている。所長を中心とした風通しの良い関係性や、職員のモチベーションの高さ、意見や提案を出しやすい環境が、離職も無く働きやすい環境として生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験や働き方に応じて役割を分担、能力を業務で活かすことで、自信や向上心、モチベーションに繋がるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員教育の一環として、研修や勉強会の参加支援を積極的に行いスキルアップやケアの質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地区連絡会の勉強会、意見交換会への参加、法人内グループホームとの情報交換、連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に馴染んでいただけるよう、思いや要望の把握に努め「傾聴・共感・受け入れる」姿勢で関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安や要望、本人から得られない情報を十分に聞くと共に、事業所の役割や考えを知っていただくことで信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居待機者への支援として、今現在の状態やサービス利用状況などから必要とされるサービスなどアドバイスを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、これまでの生活習慣や心身の状態に応じて役割作りに努めている。出来ることに着目し感謝の言葉を伝える場面をつくっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームからの広報や手紙による状況報告や何かあれば電話連絡し、相談や情報共有としている。家族が遠慮や抵抗感を感じず入居者と同じ時間を共有できる働きかけ(行事参加や外出支援)にも努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと馴染みの美容室やお店に行かれたり、月命日の定期的な外出、知人の面会時もゆっくり過ごしていただけるよう配慮している	訪問しやすい環境づくりに心がけ、地元の友人・知人が気兼ねなく面会できるように努めている。月命日・美容室・昔から利用する商店等家族の協力も得ながら支援している。昔の職場の新年会に出かけたり、初詣等これまでの関係性が途切れないよう継続して支援している。伝統行事である子ども神輿、園児との七夕短冊作り等子どもたちを通じ楽しんだり、“歌が好きだった”として楽譜を送ってくださる家族の思いは、日常生活のメリハリ、活性化を促す支援として生かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や相性などを把握した居場所作りにより、孤立しないよう見守っている。また、関係がうまくいくように職員間で情報交換しながら支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新たな環境でも、これまでの生活が継続していただけるよう連携を図っている。また、法人全体で関わりを持つことで継続的な支援に繋がっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは会話や表情、各スタッフからの日頃の情報を得ながら希望や意向の把握に努めている。また、希望や意向を担当スタッフだけで解決できない時には会議などで実現に向けて討議している	日常の会話の中で聞きとりした事案である“新聞はやめて、テレビが欲しい、布団が重たくて…”等家族に代言しながら実現させており、入居者の思いや意向等が多く出されることは、職員の寄り添うケア、気づき・観察力の賜物である。意思疎通困難、自分の思いを出すのが難しい方には、職員から引き出したり、これまでの暮らしや家族の情報からの把握、表情・行動などで察知し、会議の中で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族からの聞き取りを主に、入居以前に利用されていたサービス事業所や医療機関からの情報を把握しながらこれまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活が把握できるように、日誌や申し送りノートを活用しながらスタッフ全員で状況把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネが話し合いアセスメントにより課題を明確化、家族には事前にアンケートを送付し意向や要望の把握に努めている。最終的にはスタッフで話し合いを行いプランの作成と実践に努めている	介護に伴う意見や要望書としてアンケート形式により家族に聞き取りし、毎月のケアカンファレンスの中で継続可否を見極めている。半年毎のモニタリングによる進捗状況と、アセスメントにより課題を分析し新たなプランを作成している。本人・家族の要望と、職員の気づきや観察が生かされた具体的なサービス計画書である。家族の要望である“下肢筋力を落とさないように”との思いが、職員との歩行訓練への前向きさ等に表れており、入居者の意欲を引き出す等プランニングの成果が表れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し介護計画の実践や見直しに活かしている。また、特筆すべき点などは申し送りノートなどで情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種制度の申請、訪問調査の立会い。後見人との連絡、調整、入院時の面会や洗濯の代行、医療機関への送迎や付き添いなど柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園、合唱団、三味線、大正琴、バンド、社交ダンスなどの慰問。地区敬老会やどんどやなどへ参加し交流の機会としている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を基本とし、それ以外に緊急時や専門医受診時などには随時主治医へ相談し、そのケースにあった対応により安心して医療が受けられるように支援している	本人・家族の了承のもと全員が2週間に1回の協力医による訪問診療を受けており、法人代表者もホームを訪れ、入居者と会話をしながら健康状態を確認している。更に、月1回専門医(精神科・眼科)の訪問や、歯科訪問・訪問診療により待ち時間や入居者の負担軽減として生かされている。緊急時搬送は希望に応じた搬送先を確認しフェースシートに記入している。また、所長による事故発生や緊急時の対応についての研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	配置看護師が勤務しており、24時間、医療的な判断を仰ぐことができている。また、併設した事業所にも看護師が配置され、いつでも相談できる体制にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護要約書を作成し詳細な申し送りを行っている。定期的な面会や電話連絡による状況把握にも努めている。医療機関との会議や研修参加などを通じて情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から終末期の医療、介護の支援について、事前に意向を確認している。ご家族と話し合いをしながら関係医療機関、併設施設など法人全体で支援する体制を築いている	入居時に重度化した場合の対応に係わる指針を説明し、同意を交わしている。ターミナルについては、本人の意向が日常生活の中で聞かれた場合は、介護記録の中に記載することとしている。また、家族の思いは状況で変化するものとして捉え、その都度話し合いを持つことも伝えており、特養への申し込みもある。ホームでは外部での看取り研修に参加し、日々入居者に寄り添いながら、出来る支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えた勉強会など行い、職員の知識や実践力を身につけて適切な対応ができるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、非常食調理訓練の実施など行い災害に備えると共に地域との災害時の協力関係も築いている	今年度は自主訓練と、消防署立ち会いによる総合訓練を実施している。また、非常食の調理訓練により有事に備え、地域との自然災害時の協力に関する協定書を交わしている。職員は居室掃除時にコンセントの埃なども確認し、加湿器の水は給水係を決めて補充している。	今後、職員の非常呼び出しや緊急連絡網訓練についても取り組まれることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活暦を把握すると共に人格を尊重した言葉かけを意識している。入浴介助時は同姓介助も行っており、排泄確認時にはプライバシーや自尊心を傷つけないよう配慮している	ユニットリーダーは、入居者への言葉使いや対応で気づいたことがあればその都度指導している。車椅子の使用も移動する時は、声かけや職員の都合で行わないことを共有している。食事開始時間も本人の希望に沿って対応している。排泄時の失敗にも自信を損なわないよう十分配慮し、トイレ内の排泄用品にはクロスが掛けられている。守秘義務について、行動指針に謳い、研修で指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より各担当職員が本人の思いや希望などに耳を傾けて自己決定していただくことを基本としている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整えるため日課も取り入れながら一人ひとりのペースや希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、毛染め、散髪など利用者の希望に添えるよう努めている。本人の好みなど把握しその人らしいおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り食事の盛り付けやお盆拭きなどスタッフと共に行うようにしている。定期的に嗜好調査を行ったり、郷土料理、誕生会でのリクエストメニューなど食事が楽しめるようにしている	主食を各ユニットで炊き、副食や制限食のこんにゃくご飯は本体厨房で作られている。特におやつは季節感に富んでおり(夏はスイカを器にしたフルーツポンチや水饅頭など)、今年他県や地域の郷土料理(宮崎県・チキン南蛮、大分・とり天、上益城・いちよう葉汁など)に取り組み、入居者・職員も楽しみや地域の食を知る機会となっている。また、行事食や郷土料理はカット絵を付けた献立名を印刷し食堂に掲示している。職員も同じ物を一緒に撮っており、身体状況によりでは軽めの器に変更するなど、個別支援の状況も確認された。	食事に関する満足度や嗜好調査を実施しながら、入居者の楽しみとなる食事支援が数多く確認された。食材によっては細かくない方が食べやすいものもあり、食材を活かした切り方や、必要に応じてスプーンの準備に期待したい。また、その方に応じたテーブルの高さについて検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事形態や食事量など検討し対応している。体調維持を目的とし捕食を提供したり食事以外での水分提供や好まれる物を家族へ依頼するなどしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問診療による指導により、一人ひとりの状態にあわせたケア用品を使用している。また、仕上げ磨きなど状態を把握し清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに時間やパターンを把握し、声掛け誘導を行うことでスムーズに排泄できるように支援している	声かけや誘導によりスムーズな排泄とし、自立の方もおられ継続できるように努めているが、尿意を自ら訴えられる方は少なくなっている現状である。排泄の失敗に落ち込んだり、自信をなくすことのないよう、個々に応じサポートしている。布下着とりハビリパンツの使い分け、昼・夜のパットの大きさ、朝方の失禁時への対応など検討していることがカンファレンス記録に表れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食間での水分補給、腹部のマッサージなど行い自然な形で排泄できるように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や好まれる時間帯などに配慮しながら、希望に沿って同姓介助など行っている。安心して入浴していただけるよう身体機能に応じた浴槽の選択、福祉用具の使用をしている	入居者の体調や希望の時間を確認しながら、週2～3回の入浴を支援している。一般個浴と、機械浴のユニットと種類が異なり、身体の状態に応じ使い分けしているが、機械浴の認識が難しく不安になられる方には状態を確認して対応している。入浴は個別の関わりができるため、歌やおしゃべりを楽しみながら支援している。脱衣所や浴室は清潔に保たれ、使い勝手の良い工夫として個別の収容に(小タオル)取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調にあわせて居室での休息を促したり、就寝前には室温や湿度の調整など安眠できるよう対応行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に処方されたお薬の説明書をもとに内容の確認を行っている。服薬に関する副作用については看護師より説明を受け把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしで、季節ごとの催しもの、家事仕事や行事の中で役割づくりをすることで生きがいや充実した生活を送っていただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や季節ごとの外出行事など計画。家族参加型行事も実施し、家族と過ごす時間も大切にしている。希望に応じた外出も実施している	買物をはじめとして散歩等、個別の希望に沿った外出を支援している。地域の神社への初詣では、一般の参拝者と大吉のおみくじに互いが手を取り大喜びされる一幕など、外出は入居者にメリハリを与えている。また、夜間外出としてイルミネーションや、今年度は地元の花火大会見学に出かけている。ぶどう狩りや植木市などの外出には家族の参加も呼びかけており、車椅子を押して下さると笑顔も増え、職員との交流にも繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ち管理されている方もおり、買い物に行った時の支払いができるように支援している。自分で購入することで楽しみや喜びを感じていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との手紙、はがきのやりとりを楽しみにされている方もおられ希望時には電話、手紙の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような飾り物や花など明るく過ごしやすい空間作りに努めている。また、好まれる音楽を流しリラックスできるように支援している	時節がら段飾りや竹筒を使った雛飾りが置かれたホーム内は、職員が持ち寄った草花など季節感に溢れている。また、家族より届けられる油絵は、入居者の知っている山々など馴染みの風景が題材となっており、関心を持って眺められている。母体施設と共有の玄関は家族などが来訪しやすいように、整頓を心がけている。居室内の換気がホールにいる入居者に肌寒さなどの不快にならないよう十分配慮している。また、洗面台の丁寧な掃除や雑巾を使い分け、使用後の衛生管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性や馴染みの関係に配慮しながら、安心してゆっくり過ごしていただけるよう支援している。また、それぞれが自室で過ごす時間も大切にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族に使い慣れた家具などがあれば持参していただき、自分の住まいだと思ってもらえるようご家族に協力してもらいながら環境作りを行っている	自分の住まいとして思ってもらえる居室作りに努め、入居時やその後も、家族に加え、本人を取り巻く関係者にも持ち込みの品について協力を依頼している。居室前の暖簾の柄(ハイビスカス)と同じ造花を入口に添えたり、以前の施設で使用していたネームプレートをそのまま活用することで、自室がわかるよう工夫した部屋もある。文化祭などに出品した作品は、その後部屋に飾られ、本人の励みや訪室者の楽しみになっている。また、遺影に供えられた缶ビールやこれまでの人生の話してくださる入居者の穏やかな表情に、このホームでの生活に満足されている様子が表れている。『敬老の日記念写真プレゼント』に、職員の思いが詰まっていることも確認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、車椅子や歩行器でも安全に移動できるようになっている。トイレの場所表示、排泄後のナースコール使用を分かりやすく表示し自立した生活が送れるように工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4391400068		
法人名	社会福祉法人順和会		
事業所名	グループホーム ひのおか由紀の里 根子岳ユニット		
所在地	熊本県阿蘇市赤水無田ノ上1894番地1		
自己評価作成日	平成28年2月17日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年3月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

社会福祉法人として培ったこれまでの経験と専門性を活かし「傾聴・共感・受け入れる」を基本姿勢として、今必要とされている支援は何かをスタッフ全員でチームとして対応する事を意識しています。また、日々穏やかで、楽しく、安心できる暮らしが提供できるように、ご家族、スタッフそして関わっていただく皆さんとの良好な関係作りを大切にしています。特に地域交流が活発になると、入居者の皆さんの生活が明るく活性化することをスタッフ全員で理解し、常に意識していることで事業所と地域との交流(慰問やボランティア)、関係作りにも繋がっています。そして、これまで継続しているご家族の行事参加や紙芝居、本の読み聞かせ、レクレーション、絵画の展示などの協力も得ながら入居者の皆さんの暮らしを支える事ができています。様々な皆様の支援を得ながら、地域やご家族から、信頼、必要とされる事業所となれるよう、透明性のある運営と要望や相談が言い易い事業所作りにも努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活支援や事業所活動方針の指針とし、広報、事業計画にも理念を載せ、理念に基づいたサービスを提供するよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのつながりを大切にして、地元のサークル活動などの発表やボランティア、慰問をとおして入居者の方達とのふれあい、交流を大事にしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報により高齢者施策の現状説明や事業所の取組みを報告し、また、実習生の受け入れ、福祉体験をとおして高齢者介護の理解や人材育成に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現況や暮らし、活動報告を主に、家族参加型の会議など、その時に応じた議題や参加者を募り、情報提供や意見交換を行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種報告書や申請書類は、郵送ではなく訪問提出を基本としている。運営推進会議での報告や入居者に関する、各制度担当者との相談、連絡を通して情報交換や連携が図れるよう心掛けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会など実施することで職員一人一人が、身体拘束の弊害の大きさを十分に認識し安全で自由な暮らしを送っていただけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、どんなことが虐待につながるのか理解すること、そして、スタッフの心身のストレスや疲労等にも気を配りスタッフ同士のコミュニケーションを大切にしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者がおり、後見人の役割や事業所の関わりなど実践をとおして、今後の支援に役立てている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時などに生活支援、利用料、医療連携などについて各担当者による説明や文書により分かり易く行うと共に必要に応じて、随時説明できる体制をとっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者を設けることで些細なことでも相談しやすいような環境である。アンケートや意見箱の設置、重要事項説明書に行政機関の苦情受付機関、苦情相談窓口や苦情解決責任者、第三者委員を明記、また、本年度より介護相談員等派遣事業受け入れを開始した		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが考えて納得したケアだからこそ充実したケアの実践に繋がると考え、ケア会議やカンファレンスでは、皆で意見を出し合って決めるようにしている。意見が出しやすい環境作りと意見や提案は、まずやってみることを基本としている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験や働き方に応じて役割を分担、能力を業務で活かすことで、自信や向上心、モチベーションに繋がるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員教育の一環として、研修や勉強会の参加支援を積極的に行いスキルアップやケアの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な地区連絡会の勉強会、意見交換会への参加、法人内グループホームとの情報交換、連携を図っている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に馴染んでいただけるよう、思いや要望の把握に努め「傾聴・共感・受け入れる」姿勢で関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安や要望、本人から得られない情報を十分に聞くと共に、事業所の役割や考えを知っていただくことで信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や入居待機者への支援として、今現在の状態やサービス利用状況などから必要とされるサービスなどアドバイスを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、これまでの生活習慣や心身の状態に応じて役割作りに努めている。出来ることに着目し感謝の言葉を伝える場面をつくっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームからの広報や手紙による状況報告や何かあれば電話連絡し、相談や情報共有としている。家族が遠慮や抵抗感を感じず入居者と同じ時間を共有できる働きかけ(行事参加や外出支援)にも努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと馴染みの美容室やお店に行かれたり、月命日の定期的な外出、知人の面会時もゆっくり過ごしていただけるよう配慮している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や相性などを把握した居場所作りにより、孤立しないよう見守っている。また、関係がうまくいくように職員間で情報交換しながら支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新たな環境でも、これまでの生活が継続していただけるよう連携を図っている。また、法人全体で関わりを持つことで継続的な支援に繋がっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは会話や表情、各スタッフからの日頃の情報を得ながら希望や意向の把握に努めている。また、希望や意向を担当スタッフだけで解決できない時には会議などで実現に向けて討議している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族からの聞き取りを主に、入居以前に利用されていたサービス事業所や医療機関からの情報を把握しながらこれまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活が把握できるように、日誌や申し送りノートを活用しながらスタッフ全員で状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネが話し合いアセスメントにより課題を明確化、家族には事前にアンケートを送付し意向や要望の把握に努めている。最終的にはスタッフで話し合いを行いプランの作成と実践に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し介護計画の実践や見直しに活かしている。また、特筆すべき点などは申し送りノートなどで情報の共有に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種制度の申請、訪問調査の立会い。後見人との連絡、調整、入院時の面会や洗濯の代行、医療機関への送迎や付き添いなど柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園、合唱団、三味線、大正琴、バンド、社交ダンスなどの慰問。地区敬老会やどんどやなどへ参加し交流の機会としている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を基本とし、それ以外に緊急時や専門医受診時などには随時主治医へ相談し、そのケースにあった対応により安心して医療が受けられるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	配置看護師が勤務しており、24時間、医療的な判断を仰ぐことができる。また、併設した事業所にも看護師が配置され、いつでも相談できる体制にある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護要約書を作成し詳細な申し送りを行っている。定期的な面会や電話連絡による状況把握にも努めている。医療機関との会議や研修参加などを通じて情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から終末期の医療、介護の支援について、事前に意向を確認している。ご家族と話し合いをしながら関係医療機関、併設施設など法人全体で支援する体制を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えた勉強会など行い、職員の知識や実践力を身につけて適切な対応ができるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練、非常食調理訓練の実施など行い災害に備えると共に地域との災害時の協力関係も築いている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握すると共に人格を尊重した言葉かけを意識している。入浴介助時は同姓介助も行っており、排泄確認時にはプライバシーや自尊心を傷つけないよう配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より各担当職員が本人の思いや希望などに耳を傾けて自己決定していただくことを基本としている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整えるため日課も取り入れながら一人ひとりのペースや希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、毛染め、散髪など利用者の希望に添えるよう努めている。本人の好みなど把握しその人らしいおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り食事の盛り付けやお盆拭きなどスタッフと共に行うようにしている。定期的に嗜好調査を行ったり、郷土料理、誕生会でのリクエストメニューなど食事が楽しめるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあつた食事形態や食事量など検討し対応している。体調維持を目的とし捕食を提供したり食事以外での水分提供や好まれる物を家族へ依頼するなどしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問診療による指導により、一人ひとりの状態にあわせたケア用品を使用している。また、仕上げ磨きなど状態を把握し清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに時間やパターンを把握し、声掛け誘導を行うことでスムーズに排泄できるように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食間での水分補給、腹部のマッサージなど行い自然な形で排泄できるように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	体調や好まれる時間帯などに配慮しながら、希望に沿って同姓介助など行っている。安心して入浴していただけるよう身体機能に応じた浴槽の選択、福祉用具の使用をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や体調にあわせて居室での休息を促したり、就寝前には室温や湿度の調整など安眠できるよう対応行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に処方されたお薬の説明書をもとに内容の確認を行っている。服薬に関する副作用については看護師より説明を受け把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしで、季節ごとの催しもの、家事仕事や行事の中で役割づくりをすることで生きがいや充実した生活を送っていただけるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や季節ごとの外出行事など計画。家族参加型行事も実施し、家族と過ごす時間も大切にしている。希望に応じた外出も実施している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持ち管理されている方もおり、買い物に行った時の支払いができるように支援している。自分で購入することで楽しみや喜びを感じていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との手紙、はがきのやりとりを楽しみにされている方もおられ希望時には電話、手紙の支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるような飾り物や花など明るく過ごしやすい空間作りに努めている。また、好まれる音楽を流しリラックスできるように支援している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性や馴染みの関係に配慮しながら、安心してゆっくり過ごしていただけるよう支援している。また、それぞれが自室で過ごす時間も大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族に使い慣れた家具などがあれば持参していただき、自分の住まいだと思ってもらえるようご家族に協力してもらいながら環境作りを行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、車椅子や歩行器でも安全に移動できるようになっている。トイレの場所表示、排泄後のナースコール使用を分かりやすく表示し自立した生活が送れるように工夫している		